

令和5年第3回松野町地域公共交通会議 協議概要

1 出席者

○委員

八十島 温夫、田中 勝久、岡 力、松本 真一、井上 六廣、
岡村 勝、中脇 優、中湯 廣和、須田 正文、濱田 章二、竹内 義富、
長谷 信昭、大内 義昭、西村 正人、一色 利彦、菊池 勝二、高瀬 康文、
二宮 祐司、谷口 健二、小倉 恭信、窪 仁志、須山 広周、瀧本 美樹、
森本 秀行、友岡 純

(欠席：長谷川 喜之、松村 暢彦)

○オブザーバー

山下 勇紀 (四国運輸局交通企画課)

2 報告

(1) 報告第1号 第3回松野町地域公共交通会議での意見の対応について
第3回松野町地域公共交通会議での意見の対応について、事務局から説明。

(2) 報告第2号 交通事業者等へのヒアリング結果について
交通事業者等へのヒアリング結果について、事務局から説明。

(主な意見等)

- ・地域ごとに様々な課題があると思うが、今回のヒアリングのように各事業者から話を伺う取組を継続していくことが大事であると思う。(委員)
- ・鉄道の利用について、チケットアプリを利用した人のカウントはどのようにされているのか。

また、交通事業者が松野町からの委託事業により売上を確保しているというのは良いと思った。ただし、運転手不足は他の地域でも課題となっており、移動目的に合わせた移動手段の棲み分けを考えなければいけない。そして、移動手段に合わせた生活スタイルの見直しも必要である。

さらに、町内を走っているコミバスの収入と支出に差があるため、町民の声を聞いて、使いやすい形を考えなければならない。(委員)

(3) 報告第3号 公共交通の問題点・課題の整理について
公共交通の問題点・課題の整理結果について事務局から説明。

(主な意見等)

- ・住民ニーズへの対応が不足しているとのことだが、地域ごとの事情を把握し、1つ1つ住民の声を確認しながら対応していただけたらと思う。

また、普段公共交通に乗らない人に乗ってもらう機会をつくることで、利用促進につながると思う。(委員)

(4) 報告第4号 上位・関連計画及びまちづくりの方向性の整理について
上位・関連計画及びまちづくりの方向性の整理結果について、事務局から説明。

(5) 報告第5号 松野町公共交通関係事業の状況について
松野町公共交通関係事業の状況について、事務局から説明。

(主な意見等)

- ・ 松野町から通っている高校生は何名いるのか教えていただきたい。(委員)
⇒令和5年度の当初予算を要求した際のデータより、80数名であると予想される。(事務局)
- ・ 高校生等への定期補助のさらなる利用促進に努めていただきたい。(委員)
⇒保護者が送迎しているケースもあるため、公共交通の利用にシフトしていただけたらと思っている。(事務局)
- ・ 今年度、道路運送法が改正し、バスやタクシーの運賃をこの様な協議会で議論することで変更できるようになった。手続きもあるため、今後運賃について検討する場合は、早めにご相談いただきたい。(委員)
- ・ コミバスの1日当たりの乗車人数を把握していただきたい。今後の判断材料になると思う。(委員)
⇒時間別の利用者の把握は行っているが、車両数などにも限界があるため便数を変更するのは難しい。利用者に時間帯別に公共交通を使い分けしてもらえたらと思っている。(事務局)
- ・ 松野町ではT型集落点検(各世帯の詳細な生活実態調査)を実施されたと伺ったが、点検結果を交通計画に活用できないのか。(委員)
⇒T型集落点検では、高齢者の各親族の所在地を明らかにしており、近くに親族がいない人はすぐに移動する手段がない人であると考えられ、今後、活かしていきたいと考えている。なお、調査は町内の1地域のみで行ったものであるため、今後、他の地区でも調査していけたらと思う。(事務局)
- ・ 現在、多くの交通事業者が乗務員不足により減便している中、宇和島自動車でも乗務員不足であるが、何とか現状維持しているということを知っていただけたらと思う。(委員)
- ・ タクシーも運転手不足の状態であり、近年ライドシェアというシステムもあることから、事業者側が運転手の管理・育成ができていれば二種免許を取らずに運転手になることも可能ではないかと考えている。この件について検討していただけたらと思う。(委員)
⇒ライドシェアは自家用車を持っている人がアプリで人を送迎するという仕組みだが、現時点では日本では認められていない。

なお、二種免許については、自家用有償運送であれば二種免許は必要ない。
また、タクシー会社も自家用有償運送ができるよう、現在検討が進められている。(委員)

- ・ J R 四国でも、従業員の確保が難しい状況下で定期車両の運行維持の努力をしている。今後は、限りある生活交通路線を維持するために、各交通モードの特性を活かすことが重要である。
また、利用促進のために具体的に何をするのか、今後、委員の皆様にも考えていただきたい。(委員)

3 その他

- ・ 次回会議は 1 月中旬頃開催予定であり、年内に日程を決めさせていただく。
(事務局)